

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引



信頼される企業であるために、サステナビリティをグローバルで推進する

田川 丈二

日産自動車株式会社
専務執行役員
チーフ サステナビリティ オフィサー(CSO)

レジリエントな企業活動のために

日産は2018年度から取り組んでいるサステナビリティ戦略「Nissan Sustainability 2022」で、環境、社会性、ガバナンスの分野における活動を包括的に定義し、2022年度までの目標を定め、それらの達成に向けて取り組んでいます。計画した取り組みについては概ね順調に進捗していますが、社会

は目まぐるしく変化し、新型コロナウイルスの影響など戦略を策定した時点で想定していなかった課題が続出し、それらにも向き合い適応していく必要があります。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

2019年度は、環境戦略、人権への配慮、コーポレートガバナンスの領域について強化するべく注力しました。気候変動による異常気象の脅威が一段と高まる中、2006年、日産は2050年までに地球の平均気温上昇を産業革命以前と比較して2℃に抑えるための長期ビジョンを策定しましたが、よりレジリエントな戦略が必要不可欠と考え、1.5℃、4℃の気候変動シナリオ分析を行い、戦略強化に着手しました。いずれのシナリオであっても、日産が目指す社会は「ゼロ・エミッション」「ゼロ・フェイタリティ」社会の実現に向けて邁進することに変わりはありません。新車走行中のCO₂排出量をゼロにするため、電気自動車は欠かせない存在であり、事業構造改革「Nissan NEXT」で目標を定め取り組んでいる電動化の強化を積極的に進めていきます。

2011年、国連で「ビジネスと人権に関する指導原則」(UNGP)が承認され、すべての国や企業が尊重すべき人権に関するグローバル基準が示されました。2004年、日産ではいち早く「国連グローバルコンパクト」に署名し、2016年からは戦略的な取り組みに着手するなど人権尊重を重視しています。2019年度は、グローバル人権方針で示した企業姿勢をより具現化するべく、日産サウスアフリカ社においてアセスメントを実施し、従業員の労働環境に関わる人権リスクの評価を行いました。ここで顕在化した課題は現地主体に継続して取り組んでいくとともに、日産全体としてこの実績を踏まえて他地域に展開しつつ、グローバルレベルの基準へとつなげていきます。

日産は、2019年6月にコーポレートガバナンス体制を指名委員会等設置会社へ移行しました。監督と執行を明確に分離したことで、多様なバックグラウンドを持つ独立社外取締役が過半数を占めるなか、各委員会において健全で活発な議論が行われています。このガバナンス体制の変革を機に、透明性を高めるべくコーポレートガバナンスに関わる情報開示を進めました。社会から信頼される企業であるための情報開示を適切に行ってまいります。



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

社会課題にグローバルで取り組む

サステナビリティ戦略をグローバルに推進するため、テレビ会議やオンライン会議を活用して、日本を含めた世界各国の関係者を集め、グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティを年に2回開催しています。「Nissan Sustainability 2022」の進捗状況や目標達成に向けてその課題について論議するほか、新たに顕在化している社会課題について論議し、対応策の方向性を定め、日産のサステナビリティの競争力の維持・強化する役割を担います。社会課題に的確に対応するためには、本社のサステナビリティに関わる機能

部署に加えて、5リージョンからサステナビリティの代表者もメンバーとなり、好事例の共有や時にリージョン視点での考察も受けて、グローバルに活動を推進します。

サステナビリティ戦略をグローバル日産として推進し、各国での実行につなげていくのに同コミッティは非常に有効です。人権の取り組み強化に向けてマテリアリティの論議も同コミッティにて行い、従業員・サプライヤーにおける労働環境、顧客のプライバシー、製品の安全性、という4つの重点分野を特定するに至りました。「日産グローバル鉱物調達に関する方針」を2020年7月に公表しましたが、これも同コミッティでの論議を経て、策定したものです。



短期と長期の視点でインパクトを捉える

日産は2016年よりチーフ サステナビリティ オフィサー (CSO) の役職を設けていますが、CSOの主な役割は、社会の課題や期待を受け止め、企業戦略として取り込み、その実行をグローバルに促進することです。また、日産のサステナビリティ課題の取り組みについて会社を代表してステークホルダーと対

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

話することも役割の1つになっています。よりクリーンで安全な社会の実現を目指し、事業活動全体でサステナビリティ戦略を推進していますが、新型コロナウイルスやリーマンショックのような外部環境の変化、それに伴う業績への影響など、活動の停滞を余儀なくされるリスクも多くあります。

しかし、厳しい状況においても、環境対応への投資や社会課題への取り組みを続けることが、長期的な視点で見るとビジネス上のリターンを生み、日産の強みに繋がると確信しています。電気自動車は、災害に強いまちづくりに役立つことが実証され、自治体との連携も加速度的に増えていますし、ダイバーシティ& インクルージョンは、会社の業績に間違いなくプラスの効果をもたらしています。会社をサステナブルな方向に導いていくことが自身のCSOとしての役割であると考えています。



私はこれまで、財務やIRを担当し、金融機関や格付け機関の投資家やアナリストからさまざまなご意見を頂くことができました。ESG投資が注目されて久しいですが、そこには短期と長期の両方の視点が必要になりますし、CSOとしてサステナビリティの取り組みを推進する上でもまた企業のサステナビリティにとっても、短期と長期のインパクトを捉え、社会で何が求められているかを把握し、それを経営、戦略に生かすことが必須と思っています。社会は大きく変革しており、環境問題、人権、貧困、格差といった社会課題に対し企業がどのように向き合い、真摯に取り組んでいくかが問われています。社会から必要とされ、信頼される企業であるために、CSOとしての役割を果たし、より一層の活動強化をグローバルで進めていきます。



2019年9月、台風15号の影響で大規模な停電が続いた千葉県内の避難所や福祉施設で「日産リーフ」が走る蓄電池として活用されました。